

30 環 総 政 第 376 号

東京都環境影響評価審議会

東京都環境影響評価条例（昭和 55 年東京都条例第 96 号）第 50 条の規定に基づき、
下記事項について諮問する。

平成 30 年 9 月 27 日

東京都知事 小池 百合子

記

諮問第 488 号 「(仮称) 西新宿三丁目西地区第一種市街地再開発事業」
環境影響評価書案

受 理 報 告

区 分	対 象 事 業 名 称	受 理 年 月 日
1 環境影響評価調査計画書	・北清掃工場建替事業	平成30年8月10日
2 環境影響評価書案	・(仮称)西新宿三丁目西地区第一種市街地再開発事業	平成30年8月10日
3 環境影響評価書	・(仮称)芝浦一丁目建替計画	平成30年8月30日
	・(仮称)虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業	平成30年9月3日
4 事後調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松町駅西口周辺開発計画(工事の施行中その3) ・(仮称)目黒駅前地区第一種市街地再開発事業(工事の施行中その3) ・立川基地跡地昭島地区土地区画整理事業(工事の施行中その5) ・豊洲新市場建設事業(工事の施行中その6) ・是政橋及び関連道路建設事業(工事の完了後その1) ・調布都市計画道路3・2・6号調布保谷線三鷹都市計画道路3・2・6号調布保谷線(調布市富士見町～三鷹市野崎間)建設事業(工事の完了後その1) 	(別紙のとおり)
5 対象計画策定に係る書面提出書	・多摩都市計画道路3・1・6号南多摩尾根幹線(多摩市聖ヶ丘五丁目～南野三丁目間)建設事業	平成30年8月9日
6 完 了 届	・都市高速道路高速外郭環状葛飾線建設事業	平成30年8月8日

受 理 年 月 日
平成 30 年 8 月 30 日

「(仮称) 芝浦一丁目建替計画」
環境影響評価書案審査意見書と環境影響評価書との関連

項 目	環境影響評価書案審査意見書の内容	環境影響評価書の記載内容
騒音・振動	工事用車両の出入口が計画地南側に集中し、主な走行ルートとなる区道の大型車の交通量は、長期間にわたり大幅な増加が予想されることから、環境保全のための措置を徹底するとともに、地域住民に対して十分な説明を行うこと。	工事作業員に環境保全のための措置の内容を周知・徹底すること、また、地域住民に対し工事着手前に工事内容について説明するとともに、工事中には週間工程表を掲示するなど、適宜、丁寧な説明に努めることを環境保全のための措置に追記した。 (本編 183 ページ)
地盤	掘削工事範囲に近接して、芝浦運河及び古川の既設護岸、JR横須賀線、東京モノレール、高速道路等の公共性の高い重要施設が存在していることから、地盤掘削や地下水揚水の実施に当たっては、これらの地上及び地下の重要施設に対し適切に配慮するとともに、地盤高や地下水位の観測データを注視し、計画地及びその周辺における地盤変形等の未然防止に努めること。	既設護岸や公共性の高い重要施設に対しては、各施設の管理者等と工事着手前から協議を行い適切に配慮すること、大規模掘削による周辺地盤や近接する構造物への影響を極力抑えるよう山留設計を確実に行うとともに、施工中には山留の計測管理を行うことなど、地盤変形等の未然防止への対応について環境保全のための措置に追記した。 (本編 232 ページ)
景観	計画地北東約 5 mにある東芝浦橋における計画建築物の形態率は 21.2%と予測しているが、新たに計画地北側に集約される新浜公園(新)の形態率は、東芝浦橋よりもさらに増加するものと予想されることから、新浜公園(新)における圧迫感軽減のための方策について検討すること。	新浜公園(新)における圧迫感軽減の方策として、計画建築物と当該公園間の計画地内に高木列植を設けること、当該高木には可能な限り樹高の高い樹木を選定するよう検討することを環境保全のための措置に追記した。 (本編 338、339 ページ)

項 目	環境影響評価書案審査意見書の内容	環境影響評価書の記載内容
自然との触れ合い活動の場	<p>計画地西側に緑化を施した大規模なオープンスペースを整備する計画としているが、自然との触れ合い活動の場として持つ機能が明らかになるよう、具体的な整備方針や利用目的を記述すること。</p>	<p>オープンスペース内の歩行者専用道路沿いに様々な花木や落葉樹・常緑樹を植樹し、人々が花や緑陰を楽しみながら快適に歩行できる空間とすることなど、計画地西側のオープンスペースに関する整備方針や利用目的について予測結果に追記した。 (本編 353、356 ページ)</p>
	<p>分散していた新浜公園を古川沿いに集約し、周辺のオープンスペースと連続したまとまりのある空間として公園を整備する計画としているが、主に花見や休息等として活用されている現状の新浜公園の利用状況を踏まえ、オープンスペースの整備に当たっては、できる限り既存樹木を用いるなど継続性に配慮した計画となるよう努めること。</p>	<p>オープンスペースに用いる樹種の選定に当たっては、地域に親しまれているサクラなど既存緑地で特徴的な樹種を採用すること、また、できる限り既存樹木を用いて整備することなど、既存緑地の継続性に配慮した計画となるよう検討することを環境保全のための措置に追記した。 (本編 357 ページ)</p>
廃棄物	<p>計画地内の既存建築物の建設時期と石綿含有製品の使用期間が重複していることから、既存建築物における石綿含有製品の使用状況について、可能な限り明らかにするとともに、必要に応じて予測・評価すること。</p>	<p>既存建築物におけるアスベスト含有製品の使用状況について、より詳細に記載するとともに、特別管理廃棄物の処理・処分方法等について予測・評価を行った。 また、除去後のアスベスト廃棄物の保管、運搬及び処分に当たっては、各種規則、指針、マニュアル等に従い適切に行うことを環境保全のための措置に追記した。 (本編 364、382、384、387 ページ)</p>

受 理 年 月 日
平成 30 年 9 月 3 日

「(仮称) 虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業」
環境影響評価書案審査意見書と環境影響評価書との関連

項 目	環境影響評価書案審査意見書の内容	環境影響評価書の記載内容
大気汚染	<p>建設機械の稼働に伴う大気汚染の評価において、最大着地濃度地点では本事業による寄与率が高い上に、二酸化窒素については、環境基準値を超えていることから、環境保全のための措置を徹底するとともに、より一層の環境保全のための措置についても検討すること。</p> <p>熱源施設の稼働に伴う二酸化窒素の評価において、予測結果は環境基準値を満足するとしているが、最大着地濃度地点では本事業による寄与率が高い上に、熱源施設は、供用後継続的に稼働することから、より一層の環境保全のための措置を検討すること。</p>	<p>環境保全のための措置について、現場内での掲示や定例会議、朝礼等を通じて全ての作業員にその遂行を徹底することや、周辺への影響を考慮し必要に応じて仮囲い上部へのシート等の設置、虎ノ門地区の他の大規模開発について周辺の各開発事業者と情報共有することなどを検討し、環境への影響の低減に努めること等を環境保全のための措置に追記した。 (本編 102 ページ)</p> <p>熱源施設の稼働に伴う影響をできる限り低減するため、排気口の高さを高く変更し、併せて予測・評価の見直しを行った。 また、今後の詳細設計の中で、機種選定や排気口の高さ等の検討を行い、より一層の大気汚染の影響を低減するよう努めることを環境保全のための措置に追記した。 (本編 84、88、100、102 ページ)</p>
風環境	<p>将来の公園管理者である港区との協議の結果、A-4 街区（公園）に防風植栽を配置しないこととなった場合には、改めて A-4 街区周辺における風環境について検証するとともに、必要に応じて予測・評価の見直しを行うこと。</p>	<p>港区長からの意見を踏まえ、A-4 街区（公園）に防風植栽を配置しないこととなったことから、改めて風環境について予測・評価の見直しを行った。 (本編 203、207～218 ページ、資料編 164～169 ページ)</p>

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	浜松町駅西口周辺開発計画		
番号・答申日・受理日	1-301-2	H25. 5. 17	H30. 9. 5
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	計 画 地： 港区浜松町二丁目 敷 地 面 積： 約 28,800 m ² 建 築 面 積： 約 23,900 m ² 延 床 面 積： 約 388,000 m ² 最 高 高 さ： 約 200m 主 要 用 途： バスターミナル、タクシープール、ステーションコア、事務所、店舗、駐車場、駅舎等 駐 車 台 数： 約 698 台 工事予定期間： 平成 25 (2013) 年度～平成 39 (2027) 年度 全体工事完了： 平成 39 (2027) 年度		
事後調査の区分	工事の施行中その3		
調査項目・事項	騒音・振動、その他（土壌汚染）		
調査結果の内容	<p>1 騒音・振動</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音 騒音レベル (L_{A5}) の事後調査結果 (73dB) は、予測結果 (62dB) を上回り、環境確保条例に基づく勧告基準 (80dB 以下) を下回った。 予測を上回った理由として、仮設床の解体・撤去作業に併せて掘削を行うこととしたため、複数台のバックホウ等がまとまって稼働したこと等が考えられる。</p> <p>(2) 建設機械の稼働に伴う建設作業振動 振動レベル (L₁₀) の事後調査結果 (44dB) は、予測結果 (66dB) 及び環境確保条例に基づく勧告基準 (70dB 以下) を下回った。</p> <p>2 その他（土壌汚染） 区道 1152 号線及び A-1、A-2、TM 工区の一部の区域について、土壌汚染状況調査を行った結果、鉛、砒素及びふっ素による土壌汚染が確認されたことから「形質変更時要届出区域」に指定された。そのうち一部の区域については掘削除去の措置が完了し、「形質変更時要届出区域」の指定が解除され、残りの区域についても今後、土壌汚染対策工事を実施する予定である。 また、「形質変更時要届出区域」に指定されていた A 街区の通路部分についても掘削除去の措置が完了し、「形質変更時要届出区域」の指定が解除された。</p>		
苦 情 の 有 無	騒音について、早朝工事の準備の音などに関するものが 2 件あったが、工事の準備について朝礼後に実施するよう時間を調整するとともに、その旨を先方に説明する等の対応を行い、理解を得た。		

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 目黒駅前地区第一種市街地再開発事業		
番号・答申日・受理日	1-276-2	H27. 7. 23	H30. 9. 14
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	計 画 地： 品川区上大崎三丁目 敷 地 面 積： 約 1.7 ha 建 築 面 積： 約 7,500 m ² 延 床 面 積： 約 170,600 m ² 最 高 高 さ： 約 145 m 住 宅 戸 数： 約 945 戸 駐 車 台 数： 約 515 台 主 要 用 途： 業務施設、商業施設、共同住宅、駐車場等 工 事 期 間： 平成 25 年 2 月～平成 29 年 11 月 (46 か月) 供 用 開 始： 平成 29 年 12 月		
事後調査の区分	工事の施行中その3		
調査項目・事項	地盤、水循環、電波障害、廃棄物		
調査結果の内容	<p>1 地盤（地盤の変形の範囲及び変形の程度） 本調査期間における各調査地点の地盤高の変動量は-2～+1mm の範囲内であり、地盤の著しい変化は認められなかった。また、地下水位は第1帯水層で T.P. +16.34～+19.54m、第2帯水層で T.P. +7.35～+8.69m であり、地下水位の著しい低下は認められなかった。 以上から、掘削工事等に伴う著しい地盤の変形及び地盤沈下はないものと考えられる。 なお、調査対象期間全体（平成 26 年 10 月～平成 29 年 3 月）を通じて、いずれの地点でも地盤高や地下水位の著しい変化は認められなかった。</p> <p>2 水循環（地下水の水位、流況の変化の程度） 本調査期間における地下水位は、第1帯水層で T.P. +16.34～+19.54m、第2帯水層で T.P. +7.35～+8.69m であり、掘削工事等に伴う地下水位の著しい低下は認められなかった。 なお、調査対象期間全体（平成 26 年 10 月～平成 29 年 3 月）を通じて、いずれの地点でも地下水位の著しい変化は認められなかった。</p> <p>3 電波障害 (1) 地上デジタル放送 新たに品質評価が不良または受信不能となった地点は、広域局で5地点、県域局で6地点あった。受信不良等の苦情が寄せられた建物に関してはアンテナ改善工事を実施し、受信障害を解消した。 (2) 衛星放送 事後調査における遮蔽障害範囲は予測結果と同様であり、遮蔽障害が生じる建物については、受信アンテナ及び無線送受信機器の設置、ケーブル配線工事等の対策を実施した。</p>		

事 項	内 容																																																																																								
	<p>4 廃棄物</p> <p>(1) 建設工事に伴う廃棄物排出量</p> <p>コンクリート塊及び金属くずが予測結果を上回った主な理由として、地下基礎の解体時に予測時に見込んでいなかった堅牢な基礎が確認されたこと、外構工事時に干渉する既存建物の杭抜きを行ったことが挙げられる。</p> <p>廃プラスチックが予測結果を上回った理由として、設備工事等に伴うプラスチック製の容器や梱包材が増加したことが挙げられる。</p> <table border="1" data-bbox="496 577 1410 1227"> <thead> <tr> <th rowspan="3">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">発生量(t)</th> <th rowspan="2">再資源化率</th> <th colspan="2">発生量(t)</th> <th rowspan="2">再資源化率</th> </tr> <tr> <th>今回</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>1,469</td> <td>99.0%</td> <td>1,073.7</td> <td>7,336.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>アスファルト・コンクリート塊</td> <td>416</td> <td>99.0%</td> <td>118.0</td> <td>128.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>230</td> <td>-</td> <td>487.1</td> <td>782.7</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>564</td> <td>97.0%</td> <td>433.2</td> <td>863.5</td> <td>97.3%</td> </tr> <tr> <td>ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず</td> <td>521</td> <td>-</td> <td>297.5</td> <td>375.6</td> <td>79.0%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>59</td> <td>-</td> <td>5.0</td> <td>994.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>紙くず(段ボール)</td> <td>175</td> <td>-</td> <td>82.6</td> <td>124.9</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>1,505</td> <td>-</td> <td>302.1</td> <td>502.3</td> <td>87.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,939</td> <td>-</td> <td>2799.2</td> <td>11,108.6</td> <td>98.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土壌の掘削に伴う建設発生土の排出量、建設汚泥の排出量</p> <p>本調査期間において、建設発生土及び建設汚泥の発生はなかった。</p> <table border="1" data-bbox="496 1384 1410 1612"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>今回</th> <th>累計</th> <th>再利用・再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>m³</td> <td>205,900</td> <td>0</td> <td>166,089</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>建設汚泥</td> <td>t</td> <td>98,793</td> <td>0</td> <td>34,616</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果			発生量(t)	再資源化率	発生量(t)		再資源化率	今回	累計	コンクリート塊	1,469	99.0%	1,073.7	7,336.2	100.0%	アスファルト・コンクリート塊	416	99.0%	118.0	128.7	100.0%	廃プラスチック類	230	-	487.1	782.7	94.7%	木くず	564	97.0%	433.2	863.5	97.3%	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	521	-	297.5	375.6	79.0%	金属くず	59	-	5.0	994.7	100.0%	紙くず(段ボール)	175	-	82.6	124.9	100.0%	混合廃棄物	1,505	-	302.1	502.3	87.1%	合計	4,939	-	2799.2	11,108.6	98.1%	種 類	単位	予測結果	事後調査結果			今回	累計	再利用・再資源化率	建設発生土	m ³	205,900	0	166,089	100%	建設汚泥	t	98,793	0	34,616	100%
廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果																																																																																						
	発生量(t)		再資源化率	発生量(t)		再資源化率																																																																																			
		今回		累計																																																																																					
コンクリート塊	1,469	99.0%	1,073.7	7,336.2	100.0%																																																																																				
アスファルト・コンクリート塊	416	99.0%	118.0	128.7	100.0%																																																																																				
廃プラスチック類	230	-	487.1	782.7	94.7%																																																																																				
木くず	564	97.0%	433.2	863.5	97.3%																																																																																				
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	521	-	297.5	375.6	79.0%																																																																																				
金属くず	59	-	5.0	994.7	100.0%																																																																																				
紙くず(段ボール)	175	-	82.6	124.9	100.0%																																																																																				
混合廃棄物	1,505	-	302.1	502.3	87.1%																																																																																				
合計	4,939	-	2799.2	11,108.6	98.1%																																																																																				
種 類	単位	予測結果	事後調査結果																																																																																						
			今回	累計	再利用・再資源化率																																																																																				
建設発生土	m ³	205,900	0	166,089	100%																																																																																				
建設汚泥	t	98,793	0	34,616	100%																																																																																				
苦 情 の 有 無	電波障害について、地上デジタル放送の受信不良に関するものが 19 件あった。苦情や要望が寄せられた建物に対してアンテナ改善工事を実施し、受信不良を解消した。																																																																																								

事後調査報告書

事 項	内 容																																																																											
事 業 名	立川基地跡地昭島地区土地区画整理事業																																																																											
番号・答申日・受理日	2-277-1	H23. 10. 26	H30. 7. 31																																																																									
事 業 の 種 類	土地区画整理事業																																																																											
規 模	計 画 地：昭島市福島町、築地町、中神町及び立川市泉町の各一部 施 行 面 積：66.1ha 事 業 方 式：土地区画整理事業 工 事 期 間：平成 25 年度～平成 29 年度																																																																											
事後調査の区分	工事の施行中その 5																																																																											
調査項目・事項	廃棄物																																																																											
調査結果の内容	1 廃棄物（建設発生土及び建設廃棄物の排出量） 今回調査期間中の作業は、過年度掘削場所の埋戻し工事のみであったことから、平成 29 年度は新たな廃棄物の発生はなかった。 アスファルト塊が予測を上回った理由は、地表から確認できなかった道路が新たに確認されたためである。																																																																											
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">発生量(t)</th> <th rowspan="2">再利用・再資源化率</th> <th colspan="2">発生量(t)</th> <th rowspan="2">再利用・再資源化率</th> </tr> <tr> <th>今回</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td style="text-align: center;">31,534</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">25,326</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td>アスファルト塊</td> <td style="text-align: center;">4,834</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">6,728</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td style="text-align: center;">4,915</td> <td style="text-align: center;">98.9%</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">4,435</td> <td style="text-align: center;">98.7%</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物（廃プラ等）</td> <td style="text-align: center;">174</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">117</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">地下埋設物※</td> <td>混合廃棄物（廃プラ等）</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">679</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td>その他がれき</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">14,688</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td>鉋さい</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">7,062</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td>廃油</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">0.0%</td> </tr> <tr> <td>燃え殻・スレート材</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">45</td> <td style="text-align: center;">0.0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">41,457</td> <td style="text-align: center;">99.9%</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">59,105</td> <td style="text-align: center;">99.8%</td> </tr> </tbody> </table>			廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果			発生量(t)	再利用・再資源化率	発生量(t)		再利用・再資源化率	今回	累計	コンクリート塊	31,534	100.0%	0	25,326	100.0%	アスファルト塊	4,834	100.0%	0	6,728	100.0%	木くず	4,915	98.9%	0	4,435	98.7%	混合廃棄物（廃プラ等）	174	100.0%	0	117	100.0%	地下埋設物※	混合廃棄物（廃プラ等）	-	-	0	679	100.0%	その他がれき	-	-	0	14,688	100.0%	鉋さい	-	-	0	7,062	100.0%	廃油	-	-	0	25	0.0%	燃え殻・スレート材	-	-	0	45	0.0%	合計	41,457	99.9%	0	59,105
廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果																																																																									
	発生量(t)	再利用・再資源化率	発生量(t)		再利用・再資源化率																																																																							
			今回	累計																																																																								
コンクリート塊	31,534	100.0%	0	25,326	100.0%																																																																							
アスファルト塊	4,834	100.0%	0	6,728	100.0%																																																																							
木くず	4,915	98.9%	0	4,435	98.7%																																																																							
混合廃棄物（廃プラ等）	174	100.0%	0	117	100.0%																																																																							
地下埋設物※	混合廃棄物（廃プラ等）	-	-	0	679	100.0%																																																																						
	その他がれき	-	-	0	14,688	100.0%																																																																						
	鉋さい	-	-	0	7,062	100.0%																																																																						
	廃油	-	-	0	25	0.0%																																																																						
	燃え殻・スレート材	-	-	0	45	0.0%																																																																						
合計	41,457	99.9%	0	59,105	99.8%																																																																							
※ 平成 28 年度に確認された地下埋設物の試掘等により発生したもの																																																																												
苦 情 の 有 無	無																																																																											

事後調査報告書

事 項	内 容																																																																																																											
事 業 名	豊洲新市場建設事業																																																																																																											
番号・答申日・受理日	2-242-2	H23. 4. 19	H30. 8. 30																																																																																																									
事 業 の 種 類	卸売市場の設置、自動車駐車場の設置																																																																																																											
規 模	計 画 地：江東区豊洲六丁目地内 敷 地 面 積：約 407,000 m ² 主 要 用 途：卸売市場、商業施設、駐車場 駐 車 場 台 数：約 6,300 台 工 事 予 定 期 間：平成 23 年度～平成 30 年度以降 供 用 開 始 予 定：平成 30 年 10 月（新市場開場予定）																																																																																																											
事後調査の区分	工事の施行中その6																																																																																																											
調査項目・事項	地盤、水循環、廃棄物、その他（水質汚濁（汚染土壌））																																																																																																											
調査結果の内容	<p>1 地盤（地下水の揚水に伴う地盤沈下の範囲及び程度） 地下水位は2地点ともに1～2mの幅の変動が見られたが、降雨と連動しており、工事の影響と考えられる著しい変動は見られなかったことから計画地周辺での地下水位の低下に起因する地盤への影響は小さいと考えられる。</p> <p>2 水循環（地下水の揚水に伴う地下水の水位の変化の程度） 地下水位は2地点ともに1～2mの幅の変動が見られたが、いずれも降雨と連動しており、工事の影響と考えられる著しい変動は見られなかった。</p> <p>3 廃棄物（建設発生土及び建設廃棄物の排出量）</p> <p>(1) 建設発生土の排出量</p> <p style="text-align: right;">（予測結果は工事の終了時まで）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">予測 (m³)</th> <th style="text-align: center;">事後調査結果 (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木工事（屋外付帯工事）</td> <td style="text-align: center;">2,000</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 建設廃棄物の排出量（土木工事及び地下部分の建築工事）</p> <p style="text-align: right;">（予測結果は工事の終了時まで）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="4">廃棄物の種類</th> <th colspan="4">予測結果</th> <th colspan="4">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th colspan="3">発生量</th> <th rowspan="2">再利用・再資源化率 [%]</th> <th colspan="3">今回発生量</th> <th rowspan="2">再利用・再資源化率 [%]</th> </tr> <tr> <th colspan="2">発生過程</th> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="2">発生過程</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>建築工事</th> <th>土木工事</th> <th>建築工事</th> <th>土木工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td style="text-align: center;">1,690t</td> <td style="text-align: center;">460t</td> <td style="text-align: center;">2,150t</td> <td style="text-align: center;">99以上</td> <td style="text-align: center;">191.8t</td> <td style="text-align: center;">28.0t</td> <td style="text-align: center;">219.8t</td> <td style="text-align: center;">98.1</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">3,050t</td> <td style="text-align: center;">3,050t</td> <td style="text-align: center;">99以上</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">818.0t</td> <td style="text-align: center;">818.0t</td> <td style="text-align: center;">99</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td style="text-align: center;">650t</td> <td style="text-align: center;">82t</td> <td style="text-align: center;">732t</td> <td style="text-align: center;">99以上</td> <td style="text-align: center;">2.4t</td> <td style="text-align: center;">0.7t</td> <td style="text-align: center;">3.1t</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td style="text-align: center;">260t</td> <td style="text-align: center;">70t</td> <td style="text-align: center;">330t</td> <td style="text-align: center;">84.3</td> <td style="text-align: center;">3.8t</td> <td style="text-align: center;">4.0t</td> <td style="text-align: center;">7.8t</td> <td style="text-align: center;">80.6</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td style="text-align: center;">470t</td> <td style="text-align: center;">125t</td> <td style="text-align: center;">595t</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">4.6t</td> <td style="text-align: center;">0.1t</td> <td style="text-align: center;">4.7t</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>建設混合廃棄物</td> <td style="text-align: center;">30t</td> <td style="text-align: center;">30t</td> <td style="text-align: center;">60t</td> <td style="text-align: center;">82</td> <td style="text-align: center;">8.2t</td> <td style="text-align: center;">2.1t</td> <td style="text-align: center;">10.3t</td> <td style="text-align: center;">91.7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">3,100t</td> <td style="text-align: center;">3,817t</td> <td style="text-align: center;">6,917t</td> <td style="text-align: center;">98.3</td> <td style="text-align: center;">210.8t</td> <td style="text-align: center;">852.9t</td> <td style="text-align: center;">1063.7t</td> <td style="text-align: center;">99</td> </tr> <tr> <td>建設汚泥</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">約200m³</td> <td style="text-align: center;">約200m³</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">3.2m³</td> <td style="text-align: center;">3.2m³</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> </tbody> </table>				予測 (m ³)	事後調査結果 (m ³)	土木工事（屋外付帯工事）	2,000	0	廃棄物の種類	予測結果				事後調査結果				発生量			再利用・再資源化率 [%]	今回発生量			再利用・再資源化率 [%]	発生過程		合計	発生過程		合計	建築工事	土木工事	建築工事	土木工事	コンクリート	1,690t	460t	2,150t	99以上	191.8t	28.0t	219.8t	98.1	がれき類	-	3,050t	3,050t	99以上	-	818.0t	818.0t	99	木くず	650t	82t	732t	99以上	2.4t	0.7t	3.1t	100	廃プラ	260t	70t	330t	84.3	3.8t	4.0t	7.8t	80.6	金属くず	470t	125t	595t	100	4.6t	0.1t	4.7t	100	建設混合廃棄物	30t	30t	60t	82	8.2t	2.1t	10.3t	91.7	計	3,100t	3,817t	6,917t	98.3	210.8t	852.9t	1063.7t	99	建設汚泥	-	約200m ³	約200m ³	-	-	3.2m ³	3.2m ³	100
	予測 (m ³)	事後調査結果 (m ³)																																																																																																										
土木工事（屋外付帯工事）	2,000	0																																																																																																										
廃棄物の種類	予測結果				事後調査結果																																																																																																							
	発生量			再利用・再資源化率 [%]	今回発生量			再利用・再資源化率 [%]																																																																																																				
	発生過程		合計		発生過程		合計																																																																																																					
	建築工事	土木工事		建築工事	土木工事																																																																																																							
コンクリート	1,690t	460t	2,150t	99以上	191.8t	28.0t	219.8t	98.1																																																																																																				
がれき類	-	3,050t	3,050t	99以上	-	818.0t	818.0t	99																																																																																																				
木くず	650t	82t	732t	99以上	2.4t	0.7t	3.1t	100																																																																																																				
廃プラ	260t	70t	330t	84.3	3.8t	4.0t	7.8t	80.6																																																																																																				
金属くず	470t	125t	595t	100	4.6t	0.1t	4.7t	100																																																																																																				
建設混合廃棄物	30t	30t	60t	82	8.2t	2.1t	10.3t	91.7																																																																																																				
計	3,100t	3,817t	6,917t	98.3	210.8t	852.9t	1063.7t	99																																																																																																				
建設汚泥	-	約200m ³	約200m ³	-	-	3.2m ³	3.2m ³	100																																																																																																				

事 項	内 容																																																																																			
調査結果の内容	<p>(3) 建設廃棄物の発生量（地上部分の建築工事）</p> <p>地上部分の建築工事による建設廃棄物の発生量が予測値を上回った理由としては、卸売市場の用途の特殊性から、使用する建築部材等が多岐に渡り、端尺等の使用されない部材が出やすい状況にあったことなどが挙げられる。また、ガラスくずの再利用・再資源化率が予測結果を下回った理由としては、塗装等の付着したガラスくずが再資源化できなかったことが挙げられる。</p> <p style="text-align: right;">（予測結果は工事の終了時まで）</p> <table border="1" data-bbox="440 501 1458 1146"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量 (t)</th> <th>再利用・再 資源化率 (%)</th> <th>今回発生量 (t)</th> <th>累計 (t)</th> <th>再利用・再資 源化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">分別 廃棄物</td> <td>がれ</td> <td>コンクリートがら</td> <td>3,982.7</td> <td>99以上</td> <td>0</td> <td>5,163.2</td> <td>99.7</td> </tr> <tr> <td>き類</td> <td>その他がれき類</td> <td>1,129.0</td> <td>99以上</td> <td>300.0</td> <td>3,251.0</td> <td>96.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず</td> <td>1,410.1</td> <td>95.9</td> <td>0</td> <td>4,175.8</td> <td>83.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">廃プラスチック類</td> <td>622.7</td> <td>95.9</td> <td>0.1</td> <td>2,715.2</td> <td>86.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">金属くず</td> <td>1,102.5</td> <td>95.9</td> <td>0.6</td> <td>3,834.4</td> <td>96.8</td> </tr> <tr> <td colspan="2">木くず</td> <td>1,532.4</td> <td>99以上</td> <td>0</td> <td>2,393.9</td> <td>97.2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">紙くず</td> <td>746.7</td> <td>95.9</td> <td>0.2</td> <td>1,039.3</td> <td>92.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>10,526.1</td> <td>97.9</td> <td>300.9</td> <td>22,572.8</td> <td>93.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">建設混合廃棄物</td> <td>4,214.7</td> <td>52.9</td> <td>1.3</td> <td>4,085.7</td> <td>75.1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総 計</td> <td>14,740.8</td> <td>85.0</td> <td>302.2</td> <td>26,658.5</td> <td>90.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 その他（水質汚濁（汚染土壌））</p> <p>地下水の水質確認については46地点の濃度確認モニタリング井戸では1か月に1回、全体確認モニタリング井戸では3か月に1回の頻度で行っている。</p> <p>濃度が上昇傾向を示した地点や低下傾向を示した地点も存在しているが、全体的に見れば、大きく汚染状況が変化した傾向は確認できないと専門家会議において評価されている。</p>	廃棄物の種類		予測結果		事後調査結果			発生量 (t)	再利用・再 資源化率 (%)	今回発生量 (t)	累計 (t)	再利用・再資 源化率 (%)	分別 廃棄物	がれ	コンクリートがら	3,982.7	99以上	0	5,163.2	99.7	き類	その他がれき類	1,129.0	99以上	300.0	3,251.0	96.7	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず		1,410.1	95.9	0	4,175.8	83.4	廃プラスチック類		622.7	95.9	0.1	2,715.2	86.0	金属くず		1,102.5	95.9	0.6	3,834.4	96.8	木くず		1,532.4	99以上	0	2,393.9	97.2	紙くず		746.7	95.9	0.2	1,039.3	92.3	計		10,526.1	97.9	300.9	22,572.8	93.5	建設混合廃棄物		4,214.7	52.9	1.3	4,085.7	75.1	総 計		14,740.8	85.0	302.2	26,658.5	90.7
	廃棄物の種類			予測結果		事後調査結果																																																																														
発生量 (t)			再利用・再 資源化率 (%)	今回発生量 (t)	累計 (t)	再利用・再資 源化率 (%)																																																																														
分別 廃棄物	がれ	コンクリートがら	3,982.7	99以上	0	5,163.2	99.7																																																																													
	き類	その他がれき類	1,129.0	99以上	300.0	3,251.0	96.7																																																																													
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず		1,410.1	95.9	0	4,175.8	83.4																																																																													
	廃プラスチック類		622.7	95.9	0.1	2,715.2	86.0																																																																													
	金属くず		1,102.5	95.9	0.6	3,834.4	96.8																																																																													
	木くず		1,532.4	99以上	0	2,393.9	97.2																																																																													
	紙くず		746.7	95.9	0.2	1,039.3	92.3																																																																													
	計		10,526.1	97.9	300.9	22,572.8	93.5																																																																													
建設混合廃棄物		4,214.7	52.9	1.3	4,085.7	75.1																																																																														
総 計		14,740.8	85.0	302.2	26,658.5	90.7																																																																														
苦情の有無	<p>水質汚濁(汚染土壌)に関しては都民や市場関係者から多くの意見があった。これに対し、平成29年8月10日に提出した本事業の土壌汚染対策の変更等に関する変更届に示した追加対策を完了させるとともに地下水の水質確認を引き続き行っていくこととしている。</p>																																																																																			

事後調査報告書

事 項	内 容		
事業名	是政橋及び関連道路建設事業		
番号・答申日・受理日	2-76-1	H3.6.4	H30.9.11
事業の種類	道路の改築		
規 模	延 長： 約 1.0 km 起 点： 稲城市大丸八号地内 終 点： 府中市是政五丁目地内 車 線 数： 往復 4 車線 構 造 形 式： 平面街路構造部(約 180m) } 稲城市側 橋梁取付部(約 230m) } 橋梁部(約 400m) } 府中市側 橋梁取付部(約 220m) } 工 事 期 間： 平成 5 年 12 月～平成 29 年 3 月 供 用 開 始： 平成 29 年 4 月		
事後調査の区分	工事の完了後その 1		
調査項目・事項	大気汚染、騒音、振動、低周波空気振動、日照障害、景観		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染（自動車交通に伴う大気中の汚染物質濃度）</p> <p>一酸化炭素の期間（7日間）平均値（0.3～0.4ppm）は、全ての地点で予測結果（0.96～1.03ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.4～0.5ppm）は、全ての地点で予測結果（2.51～2.60ppm）を下回り、参考比較した環境基準（10ppm以下）を満足した。</p> <p>二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.021～0.025ppm）は、全ての地点で予測結果（0.028～0.030ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.026～0.031ppm）は、全ての地点で予測結果（0.051～0.054ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04～0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下）を満足した。</p> <p>二酸化いおうの期間（7日間）平均値（0.000～0.001ppm）は、全ての地点で予測結果（0.009～0.011ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.001ppm）は全ての地点で予測結果（0.019～0.023ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04ppm以下）を満足した。</p> <p>参考調査した浮遊粒子状物質の日平均値の最大値（0.022mg/m³）は、環境基準（0.10 mg/m³以下）を下回った。</p> <p>2 騒音（道路交通騒音）</p> <p>騒音レベル(L_{Aeq})の調査結果(昼間 56～66dB、夜間 51～62dB)は、全ての地点で予測結果(昼間 55～68dB、夜間 49～63dB)と同程度又は下回り、環境基準(昼間 70dB 以下、夜間 65dB 以下)を下回った。</p> <p>3 振動（道路交通振動）</p> <p>振動レベル(L₁₀)の調査結果(昼間 33～43dB、夜間 32～43dB)は全ての地点で予測結果(昼間 42～50dB、夜間 41～49dB)及び環境確保条例に基づく規制基準（昼間 65dB 以下、夜間 60dB 以下）を下回った。</p> <p>4 低周波空気振動</p> <p>低周波空気振動(L₅₀)の調査結果（62～71dB）は、橋梁端から 20m 地点における予測結果（75～80dB）を下回った。また参考として調査した、0m、40m、80m 及び 200m 地点の調査結果（61～77dB）においても全ての地点で予測結果（61～84dB）を下回った。</p>		

事 項	内 容
	<p>5 日照障害 橋梁部による1時間以上の日影が及ぶ範囲は、全て事業区域内にとどま っており、予測結果とおおむね同様であった。</p> <p>6 景観</p> <p>(1) 地域景観の特性の変化の程度 平面街路部は、沿道地域からの視界を阻害することは少なく、歩道整備 と歩道緑化により、整然とした街並みが形成されている。 また、斜張橋の新設により塔及びケーブルが地域景観特性に変化を生じ たが、色彩の配慮により周辺景観と調和した多摩川中流域のランドマーク となった。</p> <p>(2) 代表的な眺望地点からの変化の程度 事後調査時に消失していた眺望地点は、類似の眺望地点から比較を行っ たが、計画道路は目立つ存在ではなく、その他の撮影地点についてもおお むね予測結果と同様であった。</p> <p>(3) 圧迫感の変化の程度 平面街路部は沿道地域からの視界を阻害することは少ない。また、塔に ついては、メルテンスの法則による仰角18度以上の範囲は、予測結果の とおりほぼ河川敷内に収まるため、圧迫感の変化の程度は少ないと考 える。</p>
苦 情 の 有 無	無

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	調布都市計画道路 3・2・6 号調布保谷線 三鷹都市計画道路 3・2・6 号調布保谷線 (調布市富士見町～三鷹市野崎間) 建設事業		
番号・答申日・受理日	2-149-2	H8.11.25	H30.9.11
事 業 の 種 類	道路の改築		
規 模	延 長： 約 2.20 km 起 点： 調布市富士見町三丁目 終 点： 三鷹市野崎二丁目 車 線 数： 本線 4 車線 構造形式： 一般部 約 2.17km 橋梁部 約 0.03km 工事期間： 平成 14 年 2 月～平成 28 年 8 月 供用開始： 平成 28 年 8 月		
事後調査の区分	工事の完了後その 1		
調査項目・事項	大気汚染、騒音、振動		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染（計画路線の利用交通に伴う自動車排出ガス） 一酸化炭素の期間（7 日間）平均値（0.2～0.3ppm）は、全ての地点で予測結果（1.024～1.158ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.5～0.7ppm）は、全ての地点で予測結果（2.334～2.552ppm）を下回り、参考比較した環境基準（10ppm 以下）を満足した。 二酸化窒素の期間（7 日間）平均値（0.012～0.014ppm）は、全ての地点で予測結果（0.0254～0.0267ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.025～0.030ppm）は、全ての地点で予測結果（0.0481～0.0496ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04～0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下）を満足した。 二酸化いおうの期間（7 日間）平均値（0.001ppm）は、全ての地点で予測結果（0.0066～0.0070ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.001～0.003ppm）は、全ての地点で予測結果（0.0137～0.0144ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04ppm 以下）を満足した。 参考調査した浮遊粒子状物質の日平均値の最大値（0.037mg/m³）は、環境基準（0.10 mg/m³以下）を下回った。</p> <p>2 騒音（道路交通騒音） 騒音レベル（L_{Aeq}）の調査結果（昼間 59～64dB、夜間 53～60dB）は、全ての地点で予測結果（昼間 61～62dB、夜間 57～58dB）と同程度又は下回り、環境基準（昼間 70dB、夜間 65dB 以下）を下回った。</p> <p>3 振動（道路交通振動） 振動レベル（L₁₀）の調査結果（昼間 41～52dB、夜間 38～51dB）は、全ての地点で予測結果（昼間 53～54dB、夜間 51～52dB）及び評価の指標とした、特定工場等において発生する振動の規制に関する基準（昼間 60dB 以下、夜間 55dB 以下）を下回った。</p>		
苦 情 の 有 無	無		